

# 訓練企画の枠組み等

平成30年3月17日(土)

(一財)消防防災科学センター

研究開発部長兼統括研究員 黒田 洋司

# 自己紹介

## 【略 歴】

- 昭和58年 3月 北海道大学文学部行動科学科卒業(社会行動学研究室)
- 昭和60年 3月 北海道大学大学院環境科学研究科環境計画学専攻(修士課程)修了
- 昭和60年 4月 宮崎県庁入庁
- 平成 3年 4月 財団法人 消防科学総合センター入所 \*平成28年4月法人名称変更
- 東京都北区「東日本大震災を踏まえた今後の災害対策のあり方検討会」委員(座長)(平成23年度)
- 神戸市災害受援計画策定委員会委員(平成24年度)
- 平成25年伊豆大島土砂災害第3者調査委員会委員(平成27年度)
- 総務省消防庁「自主防災組織等の充実強化方策に関する検討会」委員(平成28年度)
- 内閣府「防災スペシャリスト養成研修企画検討会」委員(平成25年度-29年度)

## 【主な担当業務】

- 「**自主防災組織**の活性化方策に関する調査研究」(平成6年度)
  - 「地方公共団体における**災害ボランティア**対応に関する調査研究」(平成8年度)
  - 「自主防災組織、ボランティア等と連携した**災害弱者対策**のあり方に関する調査研究」(平成9年度)
  - 「災害弱者施設の防災対策のあり方に関する調査検討」(平成10年度)
  - 「地震災害応急対応**マニュアル**のあり方等に関する研究」(平成14年度)
  - 「地域防災データ総覧 風水害編[改訂版]」編集(平成12年度)
  - 「地域防災データ総覧 **災害時広報紙編**」編集(平成13年度)
  - 消防庁「**防災・危機管理e-カレッジ**」総合調整(平成15年度-)
- ※この間15団体の「**市町村地域防災計画**」の作成支援

## 【その他】

- 「阪神・淡路大震災と芦屋市**職員の参集**行動」『1995年阪神・淡路大震災調査報告－1－』東京大学社会情報研究所「災害と情報」研究会 平成8年3月
- 「阪神・淡路大震災と**市町村の広報**活動」『東京大学社会情報研究所調査研究紀要』No.9東京大学社会情報研究所 平成9年3月
- 「**自主防災組織**」その経緯と展望」(平成10年度地域安全学会発表)「月刊 地方自治」(ぎょうせい)2003年3月号に改稿掲載
- 「**市町村災害対策本部**に関する考察－平成19年(2007年)能登半島地震での輪島市を事例－」(日本災害情報学会2007年学会大会発表)
- 「地震災害時の危機管理」『災害危機管理論入門』(共著)平成20年4月 弘文堂
- 「災害時に活動する**組織・集団**の分析視角」『**災害情報**論入門』(共著)平成20年12月 弘文堂
- 「平成21年8月大雨災害(台風第9号)時の住民の行動に関する予備的調査－兵庫県佐用町住民へのヒアリング－」(日本災害情報学会2009年学会大会発表)
- 「**東日本大震災における市区町村の支援活動**について」(日本災害情報学会2011年学会大会発表)
- 『**図上演習**入門』(共著) 平成23年7月 内外出版
- 「広域巨大災害を想定した自治体における**受援体制**の構築について」『都市政策』平成25年4月号 神戸都市問題研究所
- 「**自主防災組織リーダー**のための図上訓練の一案」(日本災害情報学会2014年学会大会発表)
- 「災害時における紙情報の拡大掲示についての検討」(日本災害情報学会2014年学会大会発表)
- 『**災害情報学**事典』(共著)平成28年3月 朝倉書店
- 「市区町村における携帯電話やスマートフォンを活用した情報収集・伝達手段の整備状況についての調査結果」(日本災害情報学会2016年学会大会発表)
- 市区町村における外国人を対象とした防災対策の現状についてのアンケート調査結果(日本災害情報学会2017年学会大会発表)

# 講義の目的

- 市町村組織(職員)を対象とした防災訓練の必要性を知る。
- 市町村で行われている防災訓練の全体像を知る。
- 市町村の悩みを知る。
- 実動型防災訓練(実動訓練)の近年の取組を知る。
- 図上型防災訓練(図上訓練)の種類や特徴を知る。
- 防災訓練を企画実施する上での留意点を知る。

# 訓練企画の枠組み等

- 1 市町村組織（職員）を対象とした防災訓練の必要性（災害対策本部の教訓）
- 2 市町村で行われている防災訓練の全体像
- 3 市町村における実働訓練
- 4 市町村における図上訓練
- 5 防災訓練を企画実施する上での留意点

# 1 市町村組織（職員）を対象とした防災訓練の必要性（災害対策本部の教訓）

1-1 災害対策本部とは？

1-2 鍵を握る本部室と本部会議

1-3 さまざまな本部室の形態

1-4 望まれる適切な本部会議の開催

1-5 災害の教訓：茨城県常総市の事例

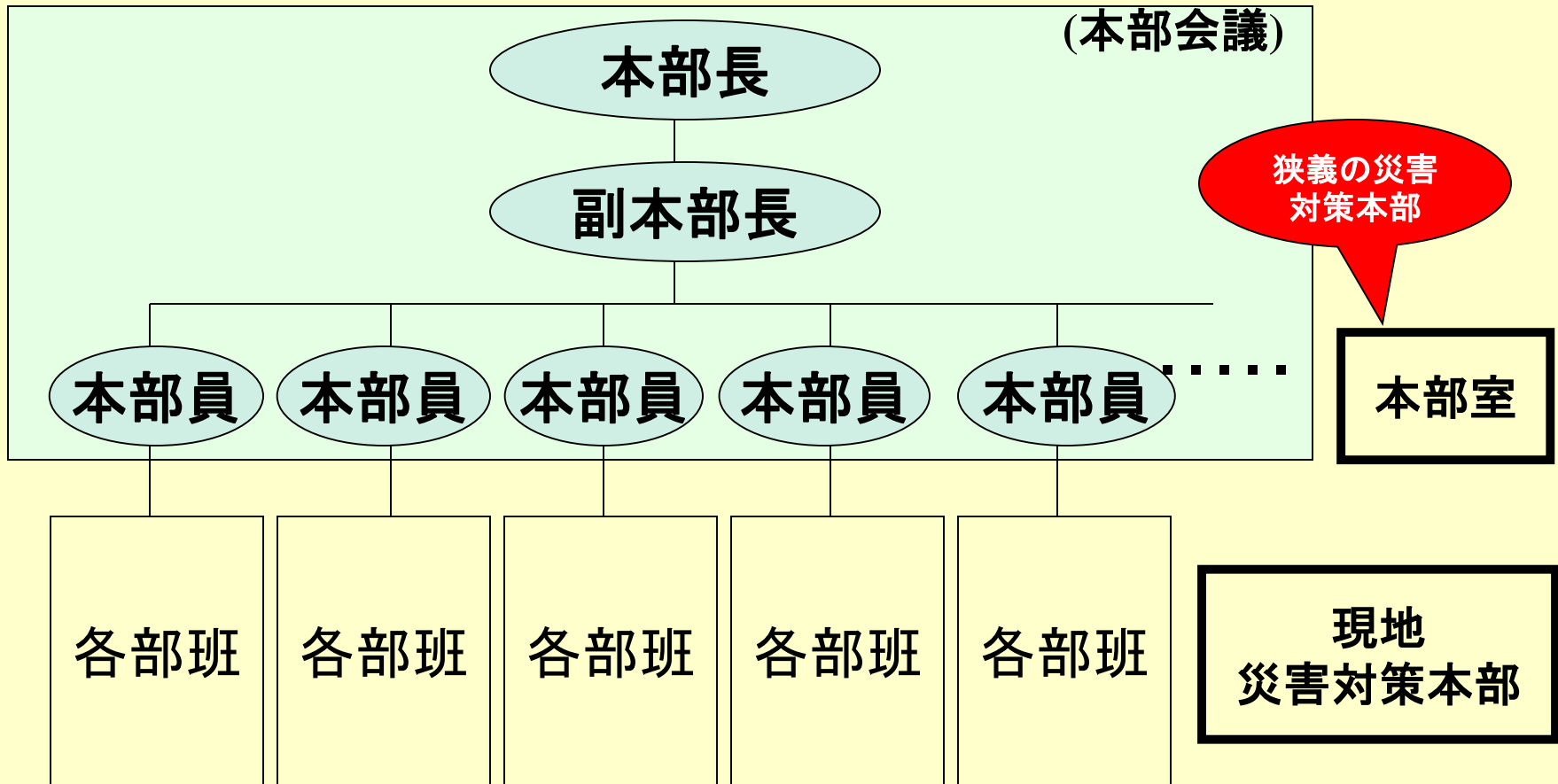
# 1-1 災害対策本部とは？

- 災害が発生したとき、又は発生するおそれがある場合に、防災活動を強力に推進するために災害対策基本法第23条及び第23条の2に基づき都道府県や市町村が**臨時に**設置する「機関」。

- 「ある日突然」も多い。
- 災害の態様（規模や被害の様相）も予測がつかない。
- 普段と違う仕事でみんな不慣れ。

# 1-2 鍵を握る本部室と本部会議

## 広義の災害対策本部





# 1-3 さまざまな本部室の形態

## : 情報集約の要、災害対応の顔

- 本部会議の準備・補佐
- 情報の集約
- 諸部門・諸機関の活動調整
- 重要な意思決定の補助
- 人や物の配置管理
- 記録
- 広報
- 来訪者の接遇
- 当該災害に関する総合窓口



# ■いろいろな本部室

- a. 常設専用型(危機管理センター)
- b. 大会議室転用型
  - 1 本部会議スペース併設型
  - 2 本部会議スペース分離型
- c. 防災主管課活用型
- d. 空きスペース活用型
- e. 庁外仮設型

- ① 一般の市町村の状況を考えると、bを前提とした体制の整備が望まれる(災害の状況に応じて柔軟にレイアウトをかえることができる利点有)。できればb-1。
- ② 電源、無線、応援機関スペース等の課題。

# 望まれる本部室の条件

- ① 情報の収集、一元化、分析、共有ができる。
- ② 重要な意思決定ができる。
- ③ 重要な活動の調整ができる。
- ④ 主要機関の応援の要請や受け入れができる。
- ⑤ 発信情報の整理（住民広報、記者発表用）ができる。

# 1-4 望まれる適切な本部会議の開催 : 組織一丸となった方向付けの鍵

- 重要事項の意思決定  
(避難勧告・指示、応援要請  
・受入、動員配備等)
- 各部・班の活動調整
- 関係機関(都道府県、警察、  
自衛隊、電力、ガス、電話等)との連携促進(関  
係機関との連絡調整会議)
- 国・都道府県現地災害対策本部との連携促進
- 住民への広報事項の決定



# 1-5 災害の教訓

## :茨城県常総市の事例 (平成27年9月関東・東北豪雨災害)

『平成27年常総市鬼怒川水害対応に関する検証報告書 ―わがこととして災害に備えるために―』平成28年6月 常総市水害対策検証委員会 より抜粋

### (1) 災害対策本部の運営及び意思決定

#### 1) 災害対策本部の物理的環境 (抽出された課題)

- ・災害対策本部(庁議室)が安全安心課と物理的に離れすぎており、両者間ではいちいち「連絡」を必要とした。
- ・庁議室は災害対策本部としてはあまりに狭く、災害対策本部事務局職員や関係各機関からの連絡要員が参加するだけのスペースも設備も不足していた。

## 2) 災害対策本部の対応体制 (抽出された課題)

- ・災害対策本部ではメンバーの役割分担がないまま全員対応が続けられた結果、対応が逐次的になりがちになったほか、必要な対策内容の抜けや漏れを生む温床ともなった。
- ・災害対策本部会議と同事務局との連携が不足しており、本来、安全安心課が担うべき災害対策本部の事務局・参謀機能の役割を果たせなかった。
- ・災害対策本部の運営が平素の庁議の延長上で行われるものと解釈されたことから、災害対策を所管する市民生活部長や安全安心課長が災害対策本部での議論をリードできなかった。
- ・災害対策本部の詳細な活動記録や議事録を残す配慮が不足していた。
- ・webサイトを通じた市民向け広報やマスメディア対応に当たるべき、情報政策課広報係の職員が災害対策本部内に常駐していなかった。
- ・初期の数日間に警察、消防、自衛隊、茨城県、国土交通省等の各関係機関の連絡要員が災害対策本部会議に参加できなかった。

### 3) 災害対策本部における情報収集・集約

#### (抽出された課題)

- ・災害対策本部が置かれた庁議室での情報収集手段があまりに貧弱すぎた。
- ・独自の情報収集手段の貧弱さゆえに、本部メンバー各個人の携帯電話への通話や庁議室に出入りする非要員がもたらす情報に頼らざるを得なくなり、情報が錯綜した。
- ・情報集約のための大判の地図資料が用いられなかった。
- ・初期の数日間、警察、消防、自衛隊、茨城県、国土交通省等の関係各機関の連絡要員が災害対策本部会議に参加できなかった。
- ・災害対策本部に数多くの情報がもたらされるものの、羅列されるばかりで、その全体的な集約と総合的な分析が十分でなかった。

## 4) 災害対策本部の意思決定プロセス

### (抽出された課題)

- ・災害対策本部では「情報分析」, 「対策立案」, 「確認・承認」などの役割分担がないまま全員対応で対策が立案・決定された。
- ・情報の整理・分析が行われず, 俯瞰的な全体状況把握ができず, 状況認識の統一が図られなかった。
- ・また, 対策の立案と決定が一体的に行われたことで, 対策内容の抜けや漏れのチェックが十分でなかった可能性がある。
- ・災害対策本部では, 課題が山積していく中で, 課題解決の優先順位が示されなかった。「**当面の目標**」を設定するリーダーシップが発揮されなかった。
- ・その結果, 災害対策本部の対応は局所的・逐次的なものになるとともに, 庁内の一般職員に至るまで, 各自が目前の課題にどう対処すべきかの行動原則の拠り所を得ることができなかった。



- ・当面の目標が明示されなかったことにより、災害対策本部内での議論が長引き、避難対策の具体的内容等が決定されるまでに時間がかかりすぎ、災害対策本部の機能低下を招いた。
- ・この**災害対策本部の機能低下が非要員の介入を許す素地**となった。災害対策本部の意思決定に外部からの介入があることで、さらに議論は長引き、災害対策本部の機能が低下する悪循環となった。

## 5) 災害対策本部及び市庁組織の統制

### (抽出された課題)

- 災害対策本部が置かれた庁議室への非要員の自由な出入りが許容され、災害対策本部の意思決定への過剰な介入や運営の阻害がもたらされた。
- 庁議室外には災害対策本部での検討状況や決定事項に関する情報がなかなか伝わらず、庁議室内とその外側の職員との間で情報や状況認識に格差が生じるという支障が生じていた。

## (2) 安全安心課の役割

### 1) 安全安心課の機能 (抽出された課題)

- ・安全安心課は市民等から殺到する電話への対応に忙殺され、結果的に、本来同課が担うべき災害対策本部の事務局・参謀機能を果たす人的・時間的な余裕が失われた。
- ・この電話対応は受動的なものに終始し、もたらされた情報の集約や全体的な状況分析、あるいは消防団を含む各防災関係機関の動向把握にまでは手が回らなかった。
- ・安全安心課が、災害対策本部の庁議室と物理的に離れすぎており、同課が災害対策本部の事務局・参謀機能の役割を果たす上で、また両者間の情報共有と意思疎通を図る上で、阻害要因となった。
- ・安全安心課長が事務局として災害対策本部の庁議室に常駐せざるを得ず、安全安心課の状況を掌握できず部下職員を直接に指揮できなかったことも災害対応上、支障要因となった。

- ・災害対策本部の運営が、平素の庁議の延長上に位置付けられるものと解釈され進行されたことによって、災害対策を所管する市民生活部長や安全安心課長が議論をリードできなかった。
- ・結果的に安全安心課は、災害対策本部の事務局・参謀機能としての役割を十分に果たせなかった。

## 2) 防災関係機関との連携 (抽出された課題)

- ・安全安心課では、殺到する電話対応に忙殺されるようになると、能動的に関係各機関に連絡を入れたり、状況確認の問い合わせを行ったりすることに手が回らなくなった。
- ・安全安心課は、消防署や消防団などの関係各機関の動向を十分に把握できなかった上、連携・調整も十分には行えなかった。
- ・常総市から関係各機関に対して、ホットラインをはじめとする各種の情報共有が十分でなかった。

# 2 市町村で行われている防災訓練の全体像

2-1 防災訓練の対象と種類

2-2 防災訓練の実施状況

2-3 防災訓練の担い手としての消防団

2-4 市町村の抱える悩み

# 2-1 防災訓練の対象と種類

## 総合防災訓練

一般住民(地域)  
向け訓練

二つの対象

職員(組織)向け  
訓練

### 実動訓練の例

会場型訓練

- 避難訓練
- 避難所開設訓練
- 初期消火訓練
- 応急救護訓練
- 救助訓練
- シェイクアウト訓練
- 発災対応型訓練

- 通信機器操作訓練
- 参集訓練
- 災害対策本部設置訓練

### 図上訓練の例

- 災害図上訓練DIG
- 避難所HUG

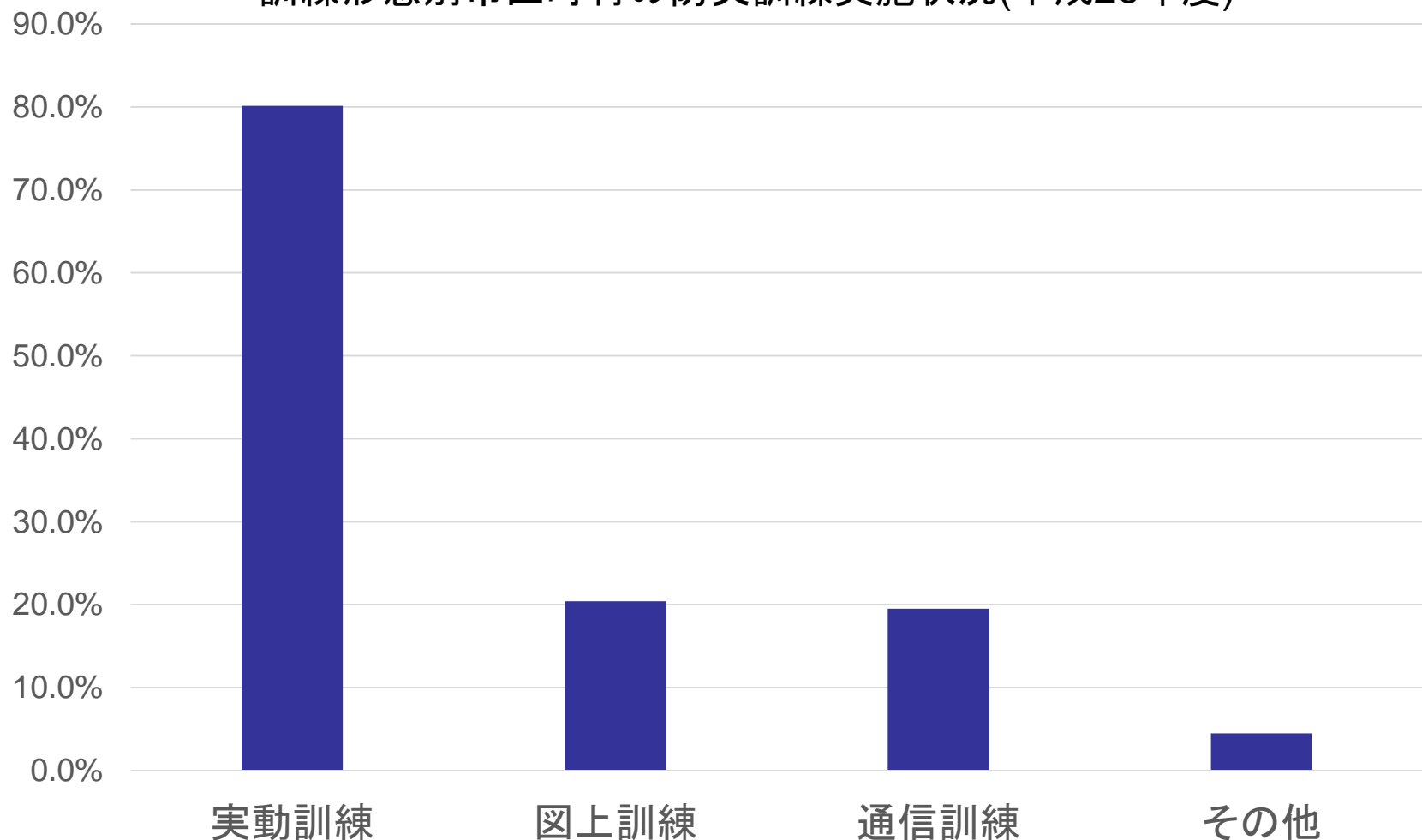
イメトレ

対応

- 防災グループワーク  
(状況付与型)
- 状況予測型図上訓練
- 防災クロスロード
- 図上シミュレーション訓練  
(状況付与型)

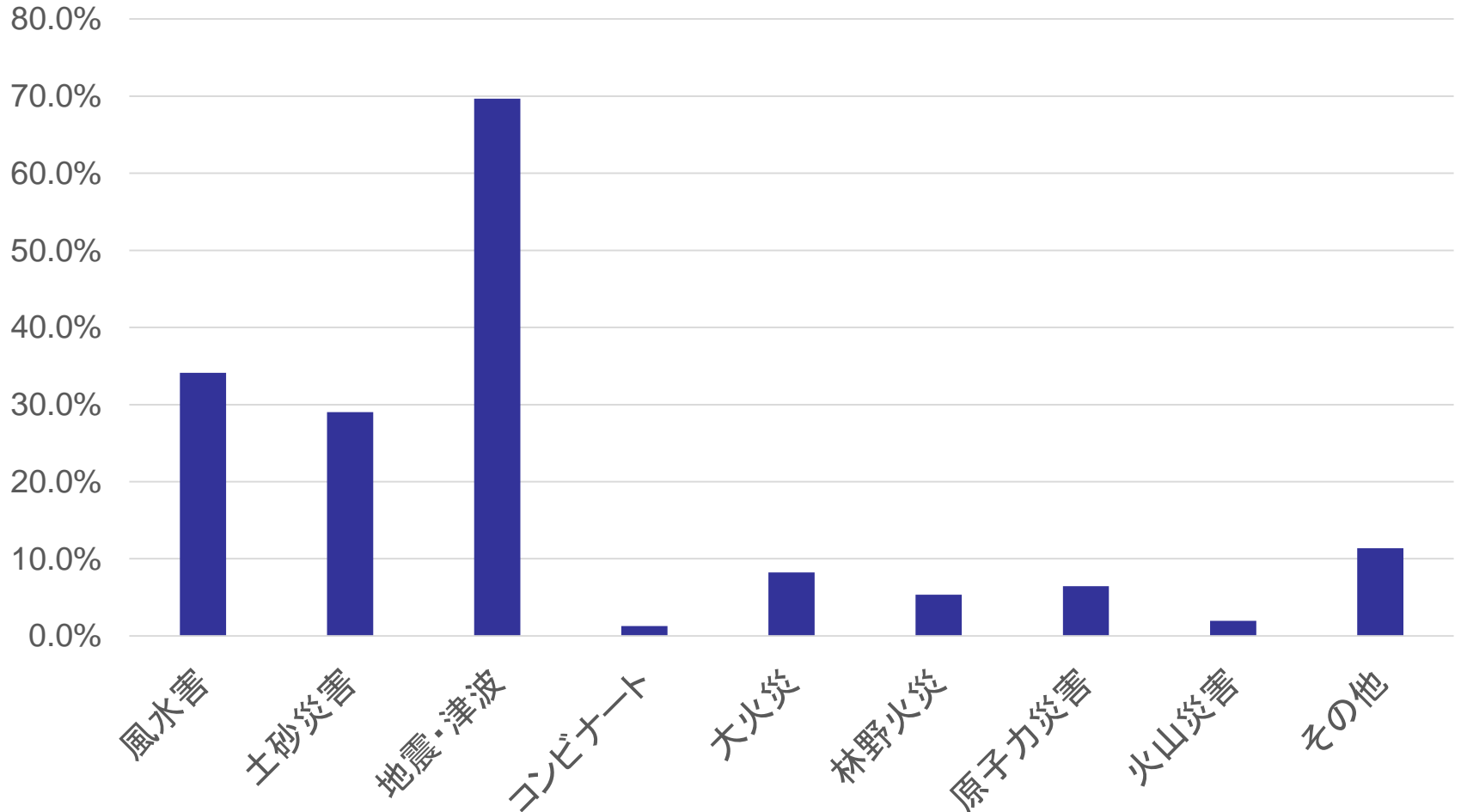
## 2-2 防災訓練の実施状況

訓練形態別市区町村の防災訓練実施状況(平成26年度)





## 災害想定別市区町村の防災訓練実施状況(平成26年度)



## 2-3 防災訓練の担い手としての消防団

### 消防団を中核とした地域防災力の 充実強化に関する法律（平成25年12月制定）

（自主防災組織等の教育訓練における消防団の役割）

第十八条 市町村は、**消防団が**自主防災組織及び女性防火クラブ（女性により構成される家庭から生ずる火災の発生の予防その他の地域における防災活動を推進する組織をいう。）、少年消防クラブ（少年が防火及び防災について学習するための組織をいう。）、市町村の区域内の公共的団体その他の防災に関する組織（以下「女性防火クラブ等」という。）の**教育訓練において指導的な役割を担う**よう必要な措置を講ずるよう努めるものとする。

# 消防団とは？

- 普段は会社員、自営業などに従事。
- S23には200万人超。



## 消防団の特徴

### 地域密着性

消防団員は管轄区域内に居住又は勤務

### 要員動員力

消防団員数は消防職員数の約5倍

### 即時対応力

現場からの教育訓練により災害対応の技術・知識を習得

消防は消火、救急など国民を災害から守ることを任務とし、市町村が責任を持って実施することになっています。



## 2-4 市町村の抱える悩み

### 一般住民(地域) 向け訓練

- マンネリ化している。
- 効果的な訓練のノウハウが不足している。
- 地域の数が多く、支援(指導)のためのマンパワーが足りない。
- 地域によって災害特性はさまざま。
- 参加者が少ない(固定化している)。
- 地域によって温度差が激しい。

### 職員(組織)向け 訓練

- マンネリ化している。
- 効果的な訓練のノウハウが不足している。
- 他の業務に追われ訓練を企画、準備する時間がない。
- 企画、準備を担当する人員が不足している。
- 全職員を対象に訓練することが難しい。

# 3 市町村における実動訓練

- 3-1 訓練の目的と近年の傾向
- 3-2 新潟豪雨災害を教訓とした訓練  
(新潟県見附市)
- 3-3 奄美豪雨災害の教訓を踏まえた訓練  
(鹿児島県奄美市)
- 3-4 夜間津波避難訓練(兵庫県南あわじ市福良地区 等)

# 3-1 訓練の目的と近年の傾向

## 【訓練の目的】

- 知識・技能・手順の習得
- 災害時の活動や行動イメージの醸成
- 顔の見える関係の構築



- 従来の「展示型」訓練からの脱却

## 3-2 新潟豪雨災害を教訓とした訓練 (新潟県見附市) \* 住民との連携・段階的

- 見附市は、平成16年7月13日、大水害を経験。その際、**気象情報、雨量、河川水位等を適切な避難勧告等の判断につなげ、住民に早めの避難を促すことが重要だと学んだ**。この教訓を踏まえ、市は避難情報の発令基準を整備するとともに、**水害の進展に即して各種情報を段階的に流し、それに応じて避難などの対応を促す訓練**を行うようになった。
- 訓練では、防災サイレン及び音声放送、メール配信等を通じ、土砂災害前ぶれ注意情報、避難準備情報、避難勧告などの情報が段階的に伝達され、自主防災組織(町内会)等はこれに呼応して避難等の訓練を実施する。
- 見附市の総合防災訓練は、メインとなる会場だけでなく、市内全町内で一斉に実施される。各地域での訓練は、自主防災組織(町内会)毎に自主的に企画・実施するよう促している。市では住民に対し「防災訓練の活動(例)」という標準的な訓練メニューを示し、市が実施する風水害対応の流れに即した情報伝達に合わせ、自主防災組織(町内会)毎に独自の訓練シナリオを企画できるよう支援している。
- これまで5,000人規模であった訓練参加者が、最近では、市人口の1/4に相当する10,000人規模の訓練参加者を維持している。

# 3-3 奄美豪雨災害の教訓を踏まえた訓練（鹿児島県奄美市）

\* 防災関係機関との連携

- 平成22年奄美豪雨時に奄美市は道路やライフラインが寸断し、複数の集落が孤立したため、陸路による救援活動ができず、自衛隊や第十管区海上保安本部等の航空機・船舶による救出活動や物資輸送を要請した。また、重篤患者を本土に搬送するため、消防・防災ヘリにより患者搬送を要請し、県DMATと連携した医療・救護活動を必要とした。
- 奄美市は、予想される島内の道路交通網の寸断等の事態に備え、消防、警察、自衛隊、海上保安庁、DMAT、通信事業者、報道機関等と連携して、総合防災訓練を企画・実施したが、このことにより、それぞれの機関・団体との協力関係を強化した。
- 豪雨時の情報伝達の支障に備えるため、コミュニティFMに加え、緊急速報メール（エリアメール）を活用した情報伝達、避難訓練も実施した。



# 3-4 夜間津波避難訓練 (兵庫県南あわじ市福良地区等)

\* 住民の自発的な訓練を支援

- 兵庫県南あわじ市福良(ふくら)地区(人口約5,600人、世帯数約2,500世帯)では、平成24年9月1日(土)、夜間の津波襲来を想定した津波避難訓練を住民主体で実施した。
- 福良地区の自主防災組織リーダーは、平成24年5月、東日本大震災の被災地である宮城県南三陸町に、他の沿岸地区自主防災組織リーダー約30人とともに研修視察に訪れた。現地でのさまざまな見聞を通して「**淡路島にこのような津波が夜来たら、われわれはどのように避難できるのか、そのための備えをしなければならぬ**」と痛感し、**本訓練を企画・実施**することになった。
- 市は訓練広報などの訓練企画準備や当日の訓練開始の告知などでの協力、消防団は夜間訓練での安全管理のため、交通上危険がある箇所への要員配置などの協力、警察は交通量の多い場所での交通整理の協力などを行い、行政の後方支援が的確に行われた。

# 4 市町村における図上訓練

4-1 図上訓練の分類例

4-2 図上訓練の目的

4-3 災害図上訓練DIG

4-4 避難所HUG

4-5 防災クロスロード

4-6 防災グループワーク

4-7 図上シミュレーション訓練

# 4-1 図上演習の分類例

	大分類	小分類	訓練例
状況付与型 図上演習	<b>イメージトレーニング型</b> 災害や危機が発生したとき、どこでどのような被害が発生し、人々や組織がどのような対応行動をとるのかについて、一定のイメージを描けるようになることを目的とするもの。	自習型(自習) 集団討議型	目黒メソッドなど 防災グループワーク、災害図上演習DIG、防災クロスロードなど
	<b>対応型</b> (図上演習シミュレーション方式)、 (ロールプレイング方式、ブラインド方式などとも呼ばれる。) 実際の災害や危機のときと同じような時間的制約の下で具体的な対応行動をとり、対応計画やマニュアルを体(頭)に覚え込ませると同時に、情報収集や意思決定のツボを習得することを主な目的とするもの。	単一領域	避難所運営ゲームHUG、災害医療訓練(エマルゴ)など
		複合領域	災害対策本部設置・運営訓練など

## 4-2 図上訓練の目的

### ・市町村にとっての目的

順位	目的	割合(%)
1	災害イメージ(どこでどのような被害が出るのか)の習得	68.6
2	応急対応の習熟	61.9
3	一般職員の防災への理解を高める	45.2
4	地域における危険箇所の理解促進	43.0
5	トップ(幹部)の防災への関心を高める	36.3
6	関係機関の動きへの理解	33.0
7	地域防災計画、対応マニュアルの有効性の検証	28.6
8	地域防災計画の見直し、対応マニュアルの作成	22.0

# 4-3 災害図上訓練DIG

**D**isaster  
(災害)

**I**magination  
(想像力)

**G**ame  
(ゲーム)

**「DIG」**

英語 dig [動詞] : 「掘り起こす、探求する、理解する」

「防災意識を掘り返す」、「地域を探求する」、「災害を理解する」といった意味が込められています。

※ この手法は、住民やボランティアを含んだ地域防災のあり方を探っていた三重県消防防災課(当時)の平野昌氏と、防衛研究所で災害救援を研究していた小村隆史氏(現富士常葉大准教授)の二人が中心となり、自衛隊の指揮所演習で使う地図と透明シートの方式を活用して編み出したものです。





## 4-4 避難所HUG

◆ 避難者の年齢、性別、国籍やそれぞれが抱える事情が書かれたカードを、避難所に見立てた平面図にどれだけ適切に配置できるか、また避難所で起こる様々な出来事にどう対応していくかを模擬体験するゲームです。

\* カードは250枚くらいあります。



- ◆ H: hinanzyo 避難所
- ◆ U: unei 運営
- ◆ G: game ゲーム

意味は「抱きしめる」

【発案】静岡県西部地域防災局

29 イベント番号[5]

災害対策本部ですが、トイレや職員室、危険な場所をとり急ぎ立ち入り禁止にしてください。

25 イベント番号[3]

今避難してきましたが、たばこはどこで吸えばいいですか。

17 イベント番号[2]

災害対策本部です、毛布200枚が01時に到着します。荷降ろしする場所を決めておいてください。

# 東日本大震災とHUG

- いくつかの小学校では、HUGを町内会、婦人防火クラブ、PTA、民生委員などで行っていたことが避難所運営に大きな効果をもたらした。

「この訓練を通じて、沖田教頭たちは、校舎のトイレはすぐ詰まるため、避難所ではトイレをいち早く作らなければいけないことを知る。・・・他にも、アレルギーの人がいるのでペットは別にしなければいけないことや、受付を作ること、駐車場や体育館内の動線の確保など、（HUGの）収穫は多かった。（震災時）うまくいかない部分もあったが、ハグのおかげで、いちいち言葉で説明しなくても、教師と地域の主要メンバーは「わかって」対応できた。」

『学校を災害が襲うとき－教師たちの3・11』田端健人、春秋社、  
2012年 p62

## 4-5 防災クロスロード

- ◆「クロスロード」とは、英語で「分かれ道」を意味。**災害対応は、ジレンマを伴う大きな決断の連続**。この防災ゲームの原型は、阪神・淡路大震災で無数のジレンマを体験した**神戸市職員の貴重な体験**を基に作成。
- ◆防災クロスロードは、災害対応を自らの問題として考え、また、**さまざまな意見や価値観を参加者同士共有**することを目的とした防災ゲーム。
  - 考案・作成者：吉川肇子（慶應義塾大学）  
矢守克也（京都大学）  
網代剛（ゲームデザイナー）
  - 参考書『クロスロード・ネクスト』吉川肇子・矢守克也・杉浦淳吉  
2009年 ナカニシヤ出版

# クロスロード問題のサンプル

## ◆あなたは避難所担当職員

災害当日の深夜。市庁舎前に救援物資を満載したトラックが続々到着。上司は職員総出で荷下ろしを指示。しかし、目下、避難所との電話連絡でてんでこ舞い。指示に従い荷下ろしをする？

## ◆あなたは食料担当の職員

被災から数時間。避難所には3000人が避難しているとの確かな情報が得られた。現時点で確保できた食料は2000食。以降の見通しは、今のところなし。まず2000食を配る？

# 勝 敗

- グループ内で、「多数意見」「尊重意見」にかかわらず、一番多くカードを持っている人が「勝ち」。
- このゲームの目的は「勝ち負け」を決めることよりも、むしろ、ゲームを通して災害対応について学ぶこと。
- それぞれの問題には基本的に「正解」はない。災害対応にはいろいろな選択肢があり、それぞれ選択した理由・意見などを参加者が出し合い、意見や価値観を参加者同士で共有することが大きな目的。



## 4-6 防災グループワーク

- 最小限の状況(場面)付与の下、5人前後のグループの中で議論し、被害や可能な対応行動を予想する訓練。

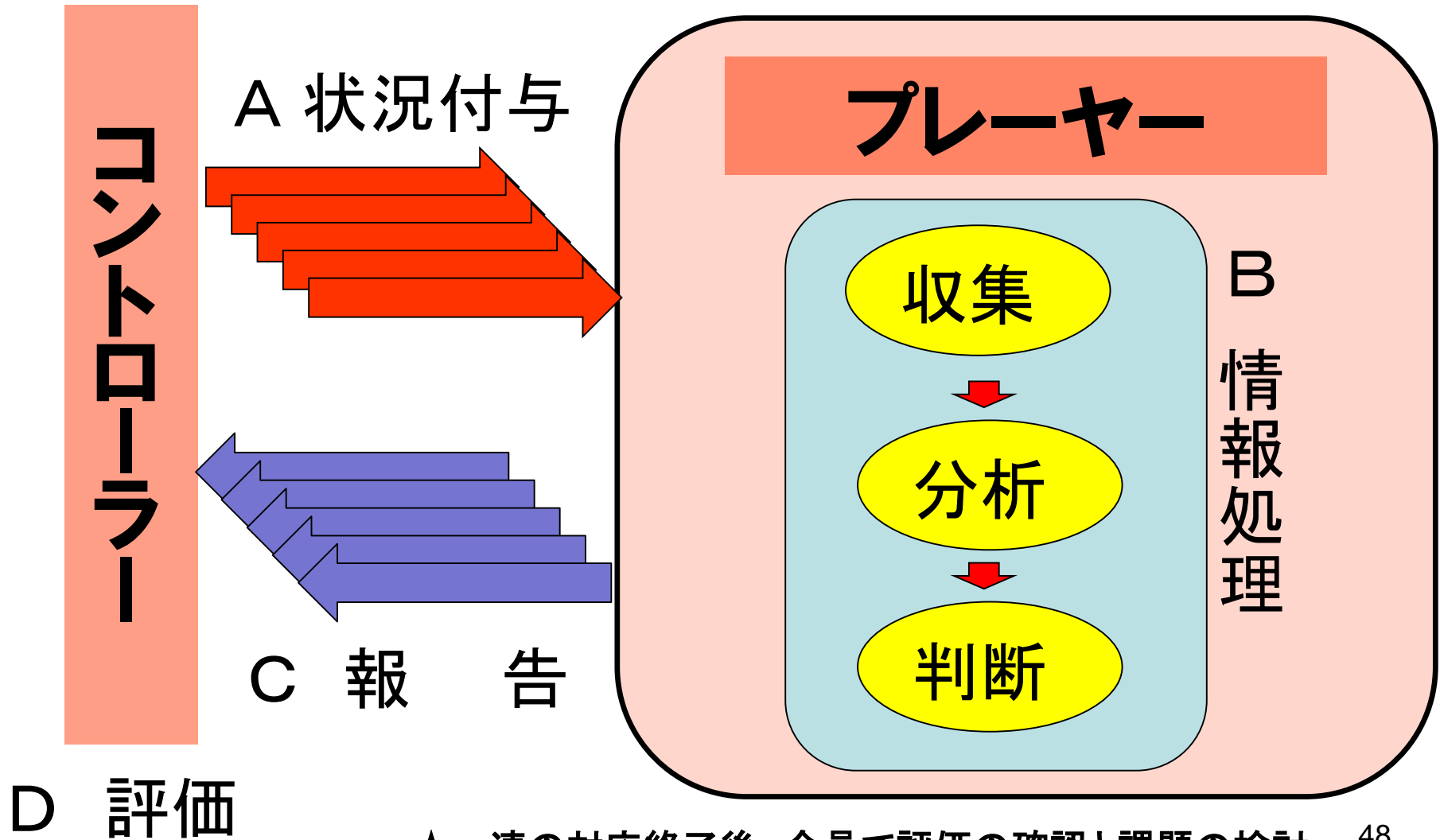
災害や危機への対応について具体的に検討し、防災計画の齟齬や課題を明らかにするためにも活用。

## 4-7 図上シミュレーション訓練

- 図上シミュレーション訓練とは、実際の災害に近い場面を設定して、役割を与えられた訓練参加者に対して、様々な状況を次から次に示し、それにはいかに対処していくかを検討・判断させる訓練。
  - \* ロールプレイング方式
  - \* シナリオは事前に知らされない。  
(ブラインド方式)
  - \* 訓練での失敗＝訓練の成功



# ■ 図上シミュレーション訓練の基本

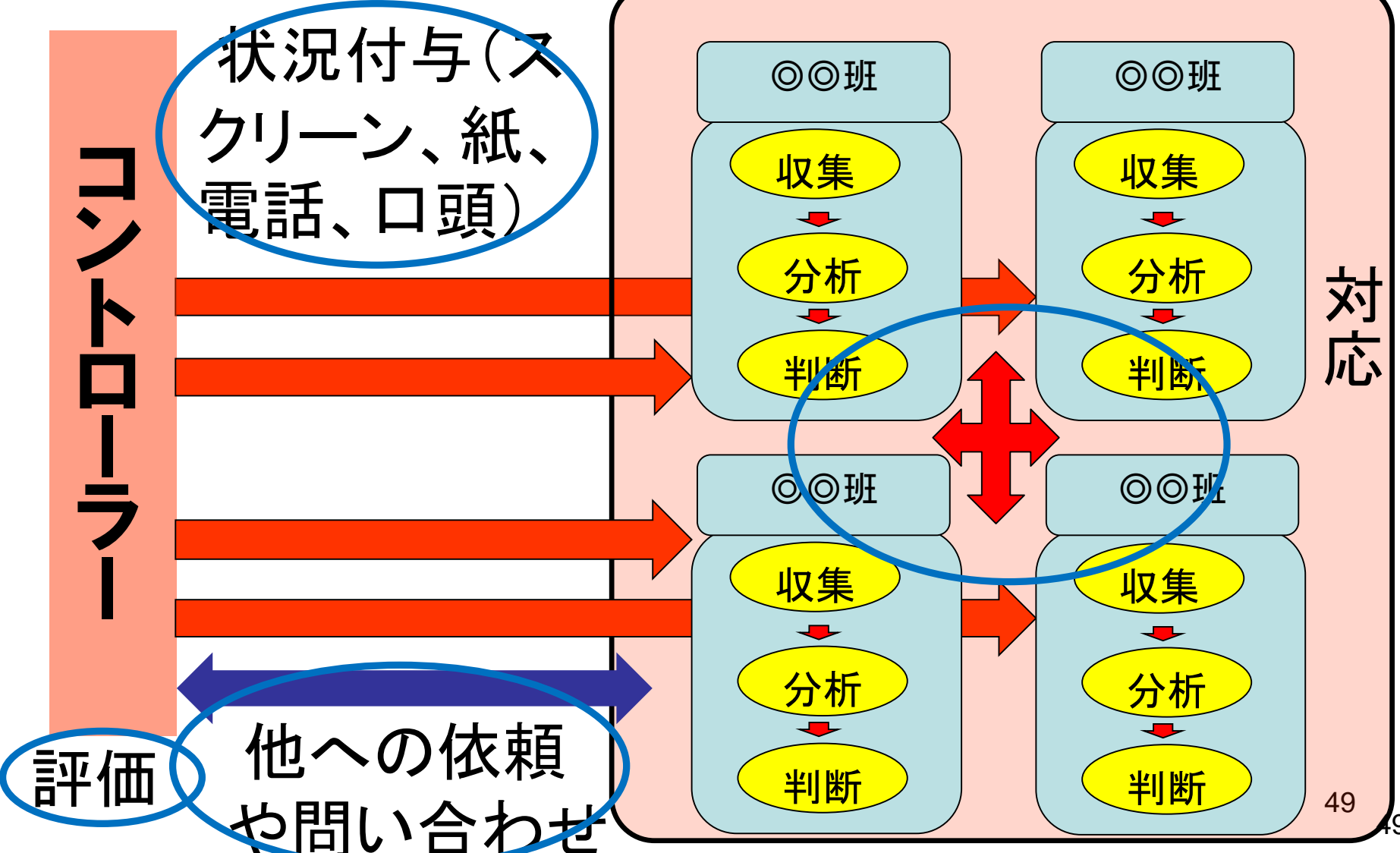


★一連の対応終了後、全員で評価の確認と課題の検討



# 訓練の発展

## プレーヤー



# 5 防災訓練を企画実施する 上での留意点

5-1 実動訓練の企画実施

5-2 図上訓練の企画実施

# 5-1 実動訓練の企画実施

企画準備	<ul style="list-style-type: none"><li>● 参加規模よりも内容を重視</li><li>● 過去の災害を掘り起こす(風化させない)</li><li>● アドバイザー等外部人材の活用</li></ul>
住民参画	<ul style="list-style-type: none"><li>● 訓練の企画・準備の段階からの地域住民の主体的な参画</li><li>● 地域住民の主体的な取組の把握と支援</li></ul>
想定・シナリオ	<ul style="list-style-type: none"><li>● 地域の様々な条件を踏まえた訓練</li><li>● 実際の災害対応の動きに合わせる</li><li>● 様々な想定やシナリオを試行する</li></ul>
関係機関	<ul style="list-style-type: none"><li>● 関係機関や団体にも参加してもらう</li></ul>
庁内体制	<ul style="list-style-type: none"><li>● 市町村長のリーダーシップ</li><li>● 防災担当職員の発案力・行動力</li><li>● 庁内一丸となった取組</li></ul>
継続	<ul style="list-style-type: none"><li>● 反復して継続的に取り組まれるものであること</li></ul>

## 5-2 図上訓練の企画実施

■ 訓練対象者と目的の明確化

■ 適切な訓練手法の選択

(課題) 訓練の効果測定、複数の訓練の体系化

訓練対象者		目的	手法の例
市町村	市町村長・幹部職員	災害イメージの習得	防災グループワーク
		役割遂行のための能力向上	図上シミュレーション
	防災部門職員	役割遂行のための能力向上	図上シミュレーション
	避難所担当職員	役割遂行のための能力向上	HUG
住民	一般住民	災害イメージの習得	DIG
	要配慮者	計画・マニュアルの具体化	HUG